



生涯学び続ける自律的な アクティブ・ラーナーの育成をめざして

No single answer to that question.

学長補佐・AP事業推進部会長 馬本 勉



平成30年7月豪雨で被災された皆様、今なお苦しい日々をお過ごしの皆様、心よりお見舞い申し上げます。

災害のたびに思うことがあります。この非常時には私は何をすればよいのだろうか、と。職場や家庭で果たすべき責任や、地域社会で求められる貢献など、To Doリストにはいくつもの項目が並びます。その中には、「できること、できないこと」「急ぐこと、急がないこと」があり、行う方法も様々です。その上、災害時には「しないほうがよいこと」もたくさん生じます。状況が目まぐるしく変化する中、「私は何をすればよいのか?」という問いに対し、適切な答えが出せたかどうかわからないまま、いつも無力感に苛まれます。せめて、自らに「今、何ができる?」と問うことだけは続けたい。何が起きているか正確に知り、伝えたい、と思います。

同僚からのメールや SNSで、何人もの学生がボランティアとして汗を流していることを知りました。地域の課題を肌で感じ取り、解決のために行動する学生諸君の姿勢にハッとさせられます。無力感なんて言ってもらえない、できることからすぐに始めよう。そう思いました。

◇ ◇ ◇

非常時に限らず、私たちの身の回りは「正解のない問い」だらけです。それに対して「より良い解」を出せる人材を育てたい、というのが昨今の教育改革の柱にあるように思います。だから知識詰め込み型だけでなく、アクティブ・ラーニング(AL)を、ということなのでしょう。

ALは能動的な学びを促す手法の総称です。そして、この言葉に対して抱く思いは、教える側も学ぶ側も実に様々です。とにかく活動に注目が集まる ALですが、それ以外に大切なものもたくさんあります。私は広島キャンパスの執務室のホワイトボードに、新聞から次の言葉を書き写しています。

「ALの本質は教育手法の形式ではなく、自律的な学修者を育てるという教育理念にある」

(日本経済新聞, 2017年7月4日)

県立広島大学では、生涯にわたって学び続ける自律的な学修者、すなわちアクティブ・ラーナー(ALer)を育てることを目標に掲げています。ALerに育った学生諸君を社会へ送り出す、それを可能にする方法の、あくまでもその一つに、いわゆる「アクティブ・ラーニング」による授業が含まれます。それはどんなものか、どうすればよいのか。

多くの疑問に答えるために、私たちの大学では「行動型」(フィールドワーク、キャンパス間交流など)と「参加型」(グループワーク、プレゼンテーションなど)に分類した手法の例を明示し、その推進を後押ししてきました。全てのキャンパスで様々な結びつきを実現する「県立広島大学型アクティブ・ラーニング」(Campus Linkage Active Learning:CLAL)。ゴールはあくまでもALerの育成です。

では、授業手法以外に、どうすればALerを育てることができるのか? 考えられる答えのいくつかを紹介します。

- 教員・職員・学生が共に大学教育を創る
「教職学協働」
- ALの導入と普及を牽引する教員
「ファカルティ・ディベロッパー(FDer)」
- 学生相互の学びを支援する学生
「学修支援アドバイザー(SA)」
- 高等学校での学びを入学後につなげる
「高大接続」
- 学修成果をより分かりやすく伝える
「学びの可視化」

これらの理念や仕組みを具体化した多くのことが、今、県立広島大学の全てのキャンパスで動いています。すべてはALerを育て、地域社会に貢献するという本学の使命を果たすためです。

答えは一つではありません。様々なアイデアが集まるからこそこの大学です。そして universityという言葉の成り立ちは、多様な力が融合し、強みを増すことを示唆するものだと、改めて思いました。

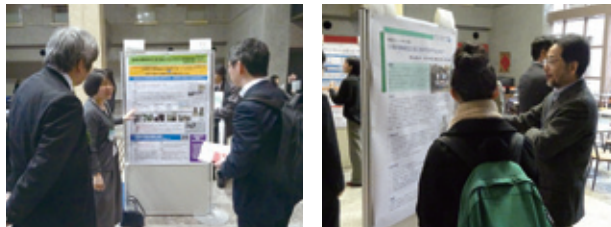
(7月18日, 生命環境学部・全学共通教育(英語))

■ 平成29年度教育改革フォーラムを開催しました

県立広島大学では、毎年度末に AP事業を振り返る「教育改革フォーラム」を開催しています。29年度は、「アクティブ・ラーナー育成の課題と展望 ～高大接続時代を迎えて～」をテーマとして、平成30年3月8日(木)に開催しました。高等教育政策の全体像を知る講演、本学 FDerによる取組の報告、パネルディスカッションと続き、白熱した議論が展開されました。また、外部評価委員による講評からは、これまでの教育成果を研究としてまとめる文化を創ろうという提言もありました。今後も、大学をあげてさらなる前進を続けます。

① アクティブ・ラーニング実践報告 (13時20分～13時50分)

フォーラムの開会に先立ち、教育研究棟2の1階 コミュニティプラザにて、本学教員によるアクティブ・ラーニング実践事例や授業改善の取組を紹介する「アクティブ・ラーニング実践報告」を実施しました。報告はポスターセッション形式で行われ、発表者・閲覧者が活発に意見交換するなど、終始盛り上がりを見せました。



② 教育改革フォーラム (14時00分～17時30分)

続いて、大講義室に会場を移し、平成29年度県立広島大学教育改革フォーラムが行われました。

はじめに、中村 義勝氏(文部科学省高等教育局大学振興課法規係長)から、「高大接続改革とアクティブ・ラーニング～その背景と今後の方向性について～」と題して基調講演をいただきました。講演では、近年の高等教育改革の現状、高大接続改革におけるアクティブ・ラーニングの位置づけ、3つのポリシーに基づく大学運営の考え方など、詳細な資料に基づき様々な観点からお話を頂戴しました。



次に、本学教員による事業報告を行いました。まず、馬本 勉 AP事業推進部会長から、「県立広島大学 AP事業の3年半を振り返って」と題して、事業採択から約3年半を経た本学 AP事業の進捗状況や課題について報告がありました。

続いて「平成29年度県立広島大学ファカルティ・ディベロッパー成果報告」では、本学のファカルティ・ディベロッパー(FDer)が登壇し、発表を行いました。本学では、FDerによる自律的・機動的な改革推進をより促進するため、29年度から FDer連絡調整ワーキンググループ内に4つのグループを設けています。この4グループが主体となり推進している、アクティブ・ラーニングの導入と実践、授業ピアレビューの実施、アクティブ・ラーナー自己評価ルーブリックの作成と試行、学修支援アドバイザーによる授業支援等の各取組について、登壇した各グループの代表者4名から、取組の概要説明と成果報告がありました。いずれの報告からも、取組の着実な進展が伺えました。



続く全体討議では、講演講師の中村氏及び成果報告者4名を登壇者に迎え、フロアを交えたディスカッションを行いました。テーマである「アクティブ・ラーナー育成の課題と展望」について、登壇者による討議のほか、フロアから多くの質問が寄せられるなど、活発な議論が展開されました。最後に、総括として、本学 AP評価委員の佐藤 万知氏(広島大学高等教育研究開発センター准教授)から講評をいただき、討議を締めくくりました。



今回のフォーラムは、アクティブ・ラーニングの推進を核とする本学 AP事業の取組を振り返りながら、生涯学び続けるアクティブ・ラーナーの育成を実現するために今後なすべきことを、参加者全員が考え、共有する非常に有意義な機会となりました。

■ 高大接続改革に向けた高大連携を推進しています

本学では、平成28年度から高大接続改革を見据えた県内高等学校等との連携に着手し、広島県教育委員会との意見交換や、県内高校との合同発表会実施により交流を深めてきました。平成29年度は、教育内容での高大接続を一層促進するため、新規取組として広島県内の高等学校への授業見学を実施したほか、28年度に続き「広島県高等学校教育研究・実践合同発表会」へ参画するなど、さらなる連携強化を図りました。

① 県内高等学校への授業見学

高等学校におけるアクティブ・ラーニングの実施状況を把握し、授業改善の参考とすることを目的として、教職員による県内高等学校への授業見学を実施しました。平成29年度は、県立高校2校及び広島市立高校2校の4校(計5回)の授業見学を実施し、高校における主体的な学びに触れることができました。

平成29年10月17日(火)には、教職員11名が広島県立広島高等学校を訪問し、授業見学を実施しました。広島県における「学びの変革」の先進校である同校では、アクティブ・ラーニングを取り込んだ授業が多数実践されており、参加した教職員は、いきいきと議論する生徒の様子に驚きつつ、授業を見学しました。また、見学後には意見交換会が行われ、同校の先生方に対して、本学参加者から多くの意見や質問が上がるなど、活発な議論が行われました。

| 実施日 | 訪問先 | 教科等 | 参加人数 |
|----------|----------------------|------------|-----------|
| 1 10月17日 | 広島県立広島中学・高等学校 | 数学, 英語 | 11名(職員含む) |
| 2 10月23日 | 広島県立三次高等学校 | 総合的な学習の時間 | 3名 |
| 3 10月24日 | 広島市立舟入高等学校 | 保健体育 | 1名 |
| 4 10月24日 | 広島市立安佐北高等学校・広島中等教育学校 | 理科(生物, 物理) | 2名 |
| 5 11月9日 | 広島県立広島中学・高等学校 | 公開授業研究会 | 8名 |



授業見学の様子



意見交換会の様子

② 平成29年度広島県高等学校教育研究・実践合同発表会

平成30年1月24日(水)、広島県教育委員会との共催により、サテライトキャンパスひろしま等を会場として「平成29年度広島県高等学校教育・研究実践合同発表会」を開催しました。当行事は、国や県教育委員会から事業指定を受けている県内高等学校が、各校の教育研究・実践についての発表及び意見交換を通じて、教育の充実を図ることを趣旨として毎年開催されています。28年度に続き2年連続の参画となった本学は、全体会及び分科会において、アクティブ・ラーニングの実践事例や学科等における組織的な教育改善の取組を報告しました。

本学の発表に対して、高校関係者からは多くの有益な質問や意見をいただきました。また、高校の発表内容からは、本学のALや高大接続の推進につながる示唆を得ることができました。29年度も、参加した高校と大学の教員が、双方の教育について相互理解を深める非常に良い機会となりました。

【①全体会】報告者：西本 寮子 副学長, 馬本 勉 学長補佐
タイトル：「高大接続改革に向けての県立広島大学の取組」

【②分科会】形式：ポスターセッション
報告件数：計13件(発表部局及びタイトルは下表のとおり。)

| 学科・センター | タイトル |
|-------------------------|---|
| 1 国際文化学科 | 英語科目における反転授業 |
| 2 健康科学科 | 学生の主体的な学修としての Calbee Future Labo「新商品開発プロジェクト」をより深化させる組織的な取組 |
| 3 経営学科 | ゼミの充実とその対外的広報に重点を置いた学科FDの取組み |
| 4 経営情報学科 | 大学における学習に向けた初年次導入教育の取り組み |
| 5 生命科学科 | 導入教育としての大学基礎セミナーの取り組み |
| 6 環境科学科 | 地域課題解決に向けて高校及び大学の強みが高次に融合した新たな人材育成モデル |
| 7 看護学科 | 保健福祉学部看護学科における学修支援アドバイザーの取り組み |
| 8 理学療法学科 | 理学療法学科における高大接続のとりくみ |
| 9 作業療法学科 | 大学での「ホームルーム」の必要性 |
| 10 コミュニケーション障害学科 | 学生が安心して臨床実習に臨むための実習前学修プログラムの効果と課題 |
| 11 人間福祉学科 | 地域の課題解決に取り組む学生の学びと地域貢献について |
| 12 総合教育センター 全学共通教育部門 | 学修環境が生み出すインタラクション: 全学共通・英語教育の実践から |
| 13 宮島学センター | 「宮島学」を基盤とした教育の実践-宮島を学ぶ・宮島で学ぶ- |



全体会の様子



分科会の様子

「支え合い、学び合う」教育改善の実現へ向けて

— 県立広島大学では、教員・職員・学生が一体となり取り組む授業改善システムの構築を目指しています

本学が目指す FDer養成の目標の一つに「支え合い、学び合う」授業改善システムの構築があります。これは、授業改善が個々の取組に留まることなく、教員が相互に授業改善について意見し、協力し合うことで、県立広島大学が一丸となつての組織的な教育改善の実現を目指すものです。

平成29年度は、FDerの相互授業参観により授業改善を図る「授業ピアレビュー」を実施したほか、FDerによるAL等取組の実践報告会や、授業ピアレビューへの学生参加も試行しました。

①授業の見方に関する研修（第2回FDer養成講座）

ピアレビュー実施の事前研修として、平成29年の6月から7月にかけて、「授業の見方」をテーマとする FDer対象研修を各キャンパスで開講しました。講師を務めた門戸 千幸 総合教育センター教授から、広島県の中等教育で広く実践されてきた、授業ピアレビューに関する考え方やノウハウが伝えられ、また受講した FDerは、学生を観察することの重要性を理解しました。



②FDerによる授業ピアレビュー

平成29年度の前期(7月)と後期(12月～1月)の二期にわたって、FDerによる授業ピアレビューを実施しました。参観した FDerは、授業の見方に関する研修の内容を踏まえて受講生の様子を観察し、その様子を「授業参観シート」へ記録して授業者へ提供しました。また、授業者である FDerは、授業参観シートの内容を踏まえた授業改善に努めました。平成29年度は、試行段階ながら、3キャンパス合わせて延べ75名が授業を公開し(89科目)、また延べ92名が授業を参観しました。

③学生間ピアレビュー

平成29年度後期ピアレビュー期間において、「学生」が授業を受講する他の「学生」の様子を観察し、学生目線から授業改善への提言を行う「学生間ピアレビュー」を試行しました。参観者は、事前に研修を受けた学修支援アドバイザー(SA)が努めました。参観した SAは、熱心に学生の様子を観察し、授業後も積極的に、授業改善に係る教員への提言を行いました。29年度は、延べ12名が7件の授業参観を実施しました。



④FDer実践報告会（第3回FDer養成講座）

平成30年9月14日(木)、広島キャンパス講義室を会場とし、FDerがアクティブ・ラーニングや教育改善の取組を発表する、ポスターセッション形式の実践報告会を開催しました(第3回 FDer養成講座)。発表した FDerは、発表内容について他の FDerや教職員、また SAと意見交換することで、授業改善への示唆を得ることができました。



お知らせ 本学のアクティブ・ラーニング実践動画が公開されています

本学は、APテーマ I (アクティブ・ラーニング) 選定校9校(幹事校:徳島大学)による連携事業の一環で、アクティブ・ラーニング実践授業の動画撮影及び公開に取り組んでいます。既に公開済みの動画を、下記サイトから閲覧することができますので、ぜひご覧ください。

◆ 公開内容 生命環境学部環境科学科「大学基礎セミナー」(1学年対象)

◆ URL <https://www.youtube.com/watch?v=WASOAZ8uIDg>

■ 県立広島大学 AP 関連ホームページ

AP事業ページ (QRコードからアクセスできます。)

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/ap/>

ラーニングコモンズ紹介ページ

<http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/lcs/>



編集後記

事業開始から5年目を迎えた AP 事業ですが、平成29年度は、これまでにないほど大きく改革が進化した一年となりました。特にピアレビューや SA は試行錯誤の連続でしたが、着実に成果を積み重ねることができました。事業終了が迫る中で、今後はこれらの成果を学内へ根付かせていくことが一層求められます。私は、その鍵は「協働」にあると考えています。「教員・職員・学生が協働して大学を創る」。大言壮語かもしれませんが、これを私自身のテーマとし、事業推進に尽力していきたいです。

(AP 事業推進部会ニュース編集担当 伊藤 俊)

■ 本学 AP 事業に関するお問い合わせ先

県立広島大学 AP 事業推進部会 (経営企画室内)

〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

E-mail: kaikaku@pu-hiroshima.ac.jp

Tel:082-251-9727 (直通)、Fax:082-251-9405